

「今日、あなたの家に泊まりたい」

ルカによる福音書 19章1節～10節

説 教 軽 込 昇 牧 師

「今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」(ルカによる福音書19章5節)それは、主イエス・キリストの私たちに対する宣言です。説教の題だけは新共同訳の言葉にさせていただきました。それは「今日、あなたの家に泊まりたい」というお言葉のほうの主イエス・キリストのお気持ちをストレートに表現していると受けとれるからです。

「今日、あなたの家に泊まりたい」。主イエス・キリストのお言葉はそのまま、十字架にまで続いています。主イエス・キリストが私の家に客となるということ、それはただ私たちの家にお迎えするというだけでなく、十字架への道をまっすぐに歩む主イエス・キリストのご決意を表現したお言葉です。

このザアカイの物語は、言わば私たち自身の物語です。他の人の物語ではありません。主イエス・キリストが「今日、あなたの家に泊まりたい」とおっしゃった恵みを、私たちが受け止めて歩む、それが主イエス・キリストにしたがっていく私たちの歩みにもなるのです。主イエスは、ザアカイにだけあなたの家に泊まりたいとおっしゃったわけではありません。私たちすべてにそう仰せになり、あなたの家こそ私が泊まるべきところであり、私があなたの家に泊まらないなら、あなたはわたしとは何の関係も無い、との固いご決意まで仰せくださっています。主イエスがザアカイにこのようにおっしゃったのは、ザアカイにとっては思いがけないことかもしれませんが、主イエスにとっては当然すぎることでありました。主イエス・キリストは、全ての人のところに泊まりたいと仰せくださっています。

ザアカイはエリコの税務署長ともいうべき男です。ローマはユダヤを支配し、ザアカイを用いて税を徴収させました。ザアカイにとってはそれは生きる手段でしたが、それはまた、ザアカイに対する人々の憎しみを生み出すことでした。主イエスを一目見たいという思いが彼の中に芽生えた理由の一つは、主イエスの12人の弟子の中に、マタイと呼ばれていた取税人がおり、また、取税人とも平気で交わっているという話まで聞こえてきて、あの主イエスというのは一体どういう人間なんだろう、見てみたい、そういう思いがあったのかも知れません。

彼は背が低かったというふうに聖書に記され

ています。そこで道端に生えていた、イチジク桑の木に登って、そこから主イエス・キリストを一目でも見ようとしました。葉っぱが大きいので、彼の姿を隠してくれ、彼にとっては都合のいい木でありました。

主イエスはその場所に来られた時、上を見上げて言われます、「ザアカイよ、急いで降りて来なさい、今日あなたの家に泊まることにしているから」。この「泊まる」という言葉は、ヨハネによる福音書第15章で、「わたしはぶどうの木、あなたがたはわたしにつながっていなさい」と主イエスがおっしゃった時の、「つながる」という言葉と同じです。ザアカイの家に泊まる、あるいはザアカイとしっかり繋がる、それはザアカイの方がそう願ったよりも、主イエス・キリストにこそ、そのご決意が強いお言葉です。そして「今日救いがこの家に来た、この人もアブラハムの子なのだから」(9節)という主イエスのお言葉が響き渡ります。

「主イエスを信じなさい、そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます」(使徒行伝16章31節)という言葉とも関連します。この時も、主イエスを信じるのは私たちですが、主イエス・キリストの方が私たちに繋がってくださり、客となってくださることと受け取ることができます。主イエス・キリストが私たちを探し求め、どこまでも追い求めて、ご自分のものとしてくださるのです。

私には一人の、どうしてもこの人に主イエス・キリストの恵みを伝えたい、そう祈る相手がありました。しかも医者からは余命宣告を受けていました。間に合うことを願っていましたが、三月に神様の元に召されました。それでも私が手を握って祈ると大きな声でアーメンと言ってくれました。洗礼こそ受けておりませんでしたけれども、私はこの人にも主イエスはあなたのところに泊まりたいと仰せくださっていると信じて、その方のために葬りの式をいたしました。

主イエス・キリストは、今日あなたの家に泊まりたいと仰せくださっています。牧師はこのことを語る為に召されています。そして、皆さんもまた、誰かに、「私は今日あなたの家に泊まりたい」という主イエス・キリストのお言葉を語り伝える、恵みと責任とがあります。